

米づくり情報（NO. 5）

令和8年8月27日

伊万里・西松浦地区農業技術者連絡会作物部会

1 気象概況（アメダス観測地：伊万里）

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 mm	本年値 mm	平年値 時間	本年値 時間
8	1	27.8	29.9	32.5	35.2	24.2	25.9	34.7	0.0	34.9	49.6
	2	27.8	30.3	32.5	34.9	24.2	25.9	38.7	0.0	33.4	27.0
	3	27.5	26.8	32.2	32.2	24.1	22.5	44.0	0.0	30.8	38.4
	4	27.1	29.0	31.7	33.6	23.7	25.6	46.2	0.0	28.9	27.5
	5	26.6	29.6	31.2	35.9	23.1	25.2	46.9	0.0	28.0	46.8

【8月1半旬～8月5半旬の気象概況】

- ・平均気温は平年より高く、月を通して高温傾向。
- ・降雨はなく、干ばつ傾向。
- ・日照時間は2半旬で寡照だったが、月全体では平年より多日照。

2 生育状況

項目 品種(設置場所)	移植 日	年 次	草 丈 (c m)	莖数 (本／㎡)	葉 齢 (L)	葉色 SPAD	概 要
夢しずく 東山代町脇野	5/30	本年値	出穂期8月5日				出穂は平年より一日早い。
	5/30	平年値 平年比(差)	出穂期8月6日 －1日				
ひなたまる 松浦町桃川	6/19	本年値	出穂期8月27日				※今年度調査開始のため、 平年値なし

（耕種概要）

- ・「夢しずく」「ひなたまる」の耕種概要は稲作情報 No.1～3を参照。

【情報田ウンカ類調査結果（25株あたり）】（調査日8月27日）

品種	地域	移植日	トビイロ ウンカ (成虫)	セジロ ウンカ (成虫)	ヒメトビ ウンカ (成虫)	ウンカ類 (幼虫)
ひなたまる	松浦町	6/19	0	0	0	0

※圃場によっては、ウンカの発生が多い箇所もあるため注意する必要がある。

3 参考（平坦部 佐賀県農業試験研究センター）（8月27日）

本年産水稻の生育状況（8月27日）

移植日	項目 品種	年次	草丈 cm	茎数 本／㎡	葉 齢 L	葉色 SPAD	概 況 (平年または平均との比較)
6月18日	夢しずく	本年 平年 平年比(差)	出穂期:8月15日 8月17日 (-2)			[気象] 8月20日～8月26日まで ◆平均気温…3.9℃高い ◆日照時間…長い(平年比 139%) ◆降水量…少ない(平年比 4%)	
	ヒノヒカリ	本年 平年 平年比(差)	出穂期:8月25日 8月27日 (-2)			[生育] ◆草丈 「さがびより」はやや低く、「ヒヨクモチ」は平年並み。 ◆茎数 「さがびより」は平年並み、「ヒヨクモチ」は多い。 ◆葉齢 「さがびより」の主穂葉数は平年並み。 「ヒヨクモチ」の葉齢はやや多い。 ◆葉色(SPAD 値) 「さがびより」はやや濃く、「ヒヨクモチ」はやや淡い。 ◆「さがびより」は走り穂が見られており(出穂期予測:8月29日頃)、「ヒヨクモチ」は主茎の葉耳間長が3.2cmとなっている(出穂期予測:9月5日頃)。	
	ひなたまる	本年 平均(2か年) 平均比(差)	出穂期:8月26日 8月25日 (+1)				
6月19日	さがびより	本年 平年 平年比(差)	91.6 93.4 98	441 442 100	止葉葉位 15.1 15.0 (+0.1)	37.3 35.7 (+1.6)	
	ヒヨクモチ	本年 平年 平年比(差)	78.4 78.5 100	711 520 137	15.9 15.6 (+0.3)	35.9 36.7 (-0.8)	
留意点	○「ヒノヒカリ」、「ひなたまる」は出穂期を迎えており、「さがびより」もまもなく出穂期を迎える。 ○施肥管理:「ヒヨクモチ」専用の全量元肥肥料を使用した圃場では、幼穂形成期～穂ばらみ期頃に葉色の低下がみられる場合は追肥を施用する。 ○水管理: 幼穂形成期～出穂期が最も要水量が多い時期であるため、穂揃期までは間断灌水の湛水期間を長めにするように心がける(用水が不足している地域では、最低でも黒乾状態とし、できれば湿潤とすることが望ましい)。穂揃期以降は通常の間断灌水に切り替え、土壌を固めるとともに根の活力維持を図る。 ○病害虫発生予察情報予報第5号(9月の予報)で、普通期水稻では、トビイロウンカ“やや多”、コブノメイガ“多”、斑点米カメムシ類“多”となっている。地域での発生状況を確認し、適期防除に努める。 ●病害虫に関する情報は以下のリンク(農業技術防除センター病害虫防除部)より確認ください。 https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html						

【幼穂形成始期と出穂期】

品 種	幼穂形成期(1mm)		出穂期	
	本年(平年差)	平年	本年(平年差)	平年
夢しずく	7/27 (-1)	7/28	8/15 (-2)	8/17
ヒノヒカリ	8/4 (±0)	8/4	8/25(-2)	8/27
ひなたまる	8/5 (+2)	8/3	8/26(+1)	8/25
さがびより	8/8 (-1)	8/9	未	9/1
ヒヨクモチ	8/15 (+1)	8/14	未	9/5

4 今後の管理

1) 山間早植え水稻（5月上中旬移植）

- ・5月上中旬移植の夢しずくは、現在、収穫期を迎えている。
- ・収穫 1 週間前までの間断灌水により子実の充実確保に努める。

2) 普通期水稻「夢しずく」

- ・糊熟期を迎えている。
- ・収穫 1 週間前までの間断灌水により子実の充実確保に努める。

3) 普通期水稻「ひなたまる」

- ・出穂期を迎えている。
- ・紋枯病が多発する圃場や、多肥・過繁茂の圃場は発生消長によっては被害が大きくなる可能性があるため、基幹防除と発生状況に応じた臨機防除を徹底する。

<収穫適期の目安「ひなたまる」>

★従来品種に比べて登熟日数が長いため、早刈りを行うと粒の肥大が不十分となり、青未熟粒の混入によって品質の低下や収量の減少を招くおそれがある。

収穫時の留意点：

- ① 「ひなたまる」は登熟後期（出穂後 49 日、積算気温約 1,200℃）まで収量が向上する特性があるため、目安より早い収穫は避けること。
- ② 黄化粳率が約 80～90%程度を目安に適期収穫を行い、早刈りや刈遅れを防ぐ。
- ③ 粳水分 25%以下を目安に収穫する。
- ④ 早刈りは玄米の充実不足により「青未熟粒」や「死米」が発生しやすく、食味の低下や収量減少につながるため避ける。
- ⑤ 遅刈りは「胴割米」や「茶米」等が発生しやすく、品質低下の原因となるため、刈遅れに注意する。

【 ひなたまる刈取り判断指標 】

積算温度	980－1200℃
出穂後日数	40－49日
粳水分の範囲	24－25%
粳黄化割合	80－90%

また、一般的な成熟期の穂相は以下のとおりですが、年次や生育量によって差があるため、穂相のみで成熟期を判定するのは難しい場合があります。したがって、上記の点に十分留意したうえで、適期の収穫を判断してください

- ・ 穂軸の先端（穂先）から 1～2cm が枯れている
- ・ 穂元に青粳が 5～7 粒残っている
- ・ 粳を爪で押しても潰れなくなった状態

4) 共通

(台風対策)

- ・台風接近時 → 風による稲体の損傷を少なくするため深水管理とする。
いずれの品種も、茎葉の繁茂度が高く、水分の蒸散量が著しい時期にあたるので、必ず深水・湛水を行う。
- ・台風通過後 → 茎葉の損傷により根の老化が進むことがあるので、台風通過後は必ず新しい水と入れ替えて、こまめに間断灌水を行い、根の機能維持・生育回復に努める。
水田に海水流入による浸冠水や潮風害を受けた場合は、直ちに排水し真水と入れ替える。できれば掛け流しを行って除塩するか、少なくとも2～3回は水を入れ替え、生育回復に努める。
※台風通過後は受光体制が乱れ、ウンカや白葉枯れ病等が発生しやすくなるため、トビイロウンカの発生には十分注意し、場合により薬剤防除を検討する。

(干ばつ)

- ・幼穂形成期から出穂期が最も要水量が大きい時期であるため、幼穂形成期以降は間断灌水を行い、減数分裂期（出穂 10 日前）～穂揃期までは湛水を長めにとるように心がける（この期間は最低でも黒乾状態とし、できれば湿潤とする）。
- ・被害の目安としては、日中は若干萎凋していたとしても、朝夕は正常に戻っていれば被害は最小限に抑えることができる。穂ばらみ期に葉の先端の水孔からの排水が止まる（日暮れになっても先端に水滴がつかない）と白穂の危険性がある。
- ・幼穂形成期に白乾で経過し、穂ばらみ期に急激に灌水状態とすると、根の活力が失われるなどして、登熟不良になることが懸念される。したがって、最初は「はしり水」などして湿潤状態で経過させ、その後湛水するようにする。
- ・少ない用水を効率的に利用するためには、溝切を実施することが効果的である。
- ・蒸発散量の少ない夕方から未明での灌水が、水稻の萎凋・枯死の被害を軽減できる。
- ・干ばつ後は土壌中の無機態窒素が増加し、水を得ると一気に水稻が吸収するので、異常伸長など水稻の生育にも影響があり、いもち病の発生を助長することもあるため、干ばつ後の入水・降水後に直ぐ施肥を行うことは避ける。
- ・干ばつが長く続くと、クレークに面した畦畔沿いに深い亀裂が生じて土手が崩落する「法（のり）落ち」が発生しやすいので、土手沿い畦畔の内側には敷きワラ等を行い過乾燥防止に努める。
- ・モグラやカニ類の影響で畔から漏水しているほ場が見受けられるため、水田の周囲も再度確認し、少しでも水持ちがよくなるように努める。
- ・用水路には用水以外にも水草などが流れてくることがあり、これらが詰まって下流に水が流れないことがある。水田だけでなく用水路の見回り・維持管理により確実な用水の確保に努める。

(主な病害虫の防除適期)

病害虫名	稲のステージ	止葉出葉 穂ばらみ後期 出穂期 穂揃期 乳熟期								
	出穂前後日数	-15	-10	-5	0	+5	+10	+15	+20	
紋枯病	並発生の場合									
	多発生の場合									
穂いもち	並発生の場合									
	多発生の場合									
カメムシ類	並発生の場合									
	多発生の場合									

図3 紋枯病、穂いもち、カメムシ類の防除適期

(斑点米カメムシ)

- ・ 平年よりも発生が多く認められ、斑点米の発生による等級低下が懸念される。
- ・ 7月29日に農業技術防除センターより注意報が出されており。警戒が必要。.....
 - ・ 九州北部の1か月予報では、向こう一か月の気温は平年より高いと予想されており、本虫の発生・活動に好適な条件が続くため、警戒が必要。
- ・ 圃場周辺の畦畔、休耕田、空き地等の雑草は斑点米カメムシ類の増殖・飛来源となるため、**除草作業を出穂10日前までに行う**。出穂直前以降の除草は水田内への斑点米カメムシ類の侵入を助長するため避ける。
- ・ **薬剤防除は乳熟期（穂揃い期の約10日後）を中心に行うが、発生が多い圃場では穂揃い期と乳熟期（穂揃い期の7～10日後）の2回薬剤防除を行う。**
- ・ イネカメムシの発生を認めた圃場では、通常の斑点米カメムシ類の防除に加え、発生状況に応じて出穂期の防除を行う。

(紋枯病)

- ・ 8月の気象予報では、気温が高く、**多発生条件**となっている。
- ・ 近年、多発傾向にあるため、発生を認めた圃場では病斑が上位の葉鞘に進展（垂直進展）する時期に防除を徹底する。（液剤、粉剤の場合は出穂10～20日前を目安とする）
- ・ 病斑が上位3葉の葉鞘に達している場合は直ちに薬剤防除を行う。
- ・ ひなたまるは紋枯病に弱いため、基幹防除と発生状況に応じた臨機防除を徹底する。



(いもち病)

- ・ 7月から好天が続いているため、感染好適条件は発生していないが、常発地帯では引き続き注意して圃場を観察する。
- ・ 進展型病斑が確認された場合、特に上位葉に病斑が見られた時は速やかに防除を実施する。

(ウンカ類)

- ・ セジロウンカとトビイロウンカは6月16日～7月20日に断続的に飛来が確認されている。
- ・ 今後の飛来状況や圃場条件（移植時期や品種、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量は異なる

ため、注意深く圃場を観察し、発生が多くみられる場合は速やかに防除を行う。

トビイロウンカ防除適期（例）

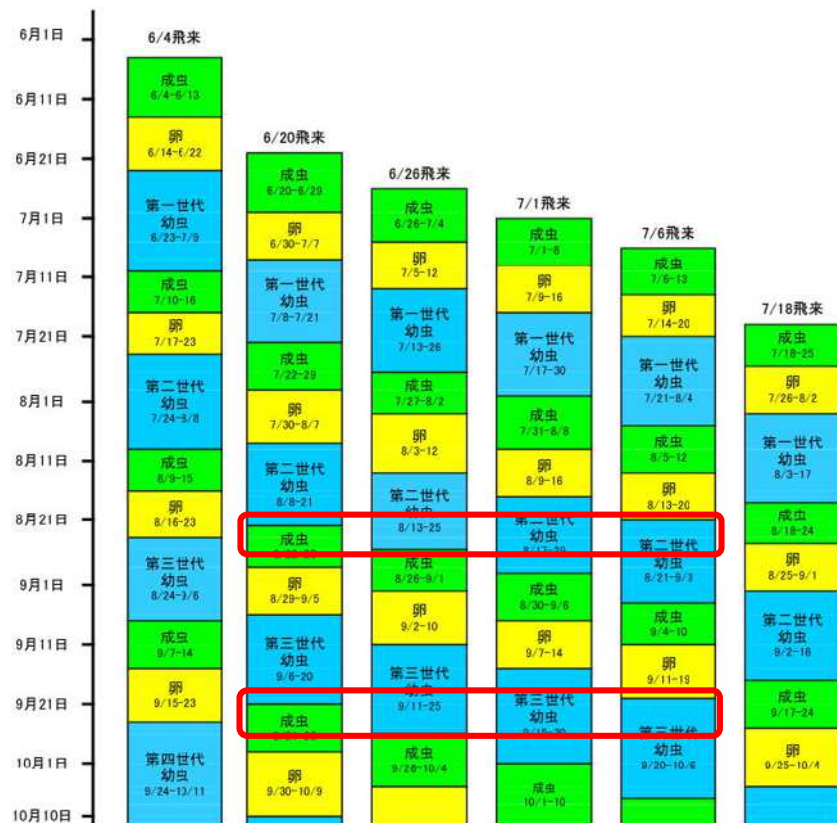
1回目 8/21～8/25

2回目 9/20～9/25

コブノメイガ防除適期（例）

1回目 8/8～8/22

2回目 9/11～9/26



共通一図1 トビイロウンカ各世代の発生予測（第3版、2026年8月20日作成）



図3 コブノメイガ各世代の発生予測（第1版、2026年7月8日作成）

ウンカ類幼虫の見分け方について

	若齢幼虫の体色	中～老齢幼虫の体色	水面での後脚の出し方
セジロウンカ	白っぽい	灰白の斑紋	 ：真横
トビイロウンカ	白っぽい	薄茶か茶褐色	 ：真横～やや斜め後ろ
ヒメトビウンカ	黄褐色	淡黄色か薄茶か茶褐色 (体側の色が濃い場合あり)	 ：斜め後ろ

		トビイロウンカ	セジロウンカ	ヒメトビウンカ
成虫				
幼虫	若齢			
	中齢～老齢			

令和8年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：伊万里）

西松浦農業振興センター

